

## 告辞

「home」とありがとう」

卒業生の皆さん、保護者の皆さま、

ご卒業おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

ご来賓の皆さま、

公立小松大学が、4年の学年進行を無事完了し、ここに、最初の卒業生を送り出すことができますことは、このうえないよるごびであります。これまでのご指導ご支援のお蔭と感謝申し上げます。

さて、卒業される皆さんは今日、晴れて「学士」、*Diploma* となられました。修めた専門により、「学士(工学)」、あるいは「学士(看護学)」、「学士(臨床工学)」、「学士(国際文化学)」を、一生を通じて、名乗ることができます。いずれも、対応する英文名称をもち、国際的にも通用する称号です。

皆さんはやがて、社会のさまざまな分野で、中堅となり指導者となります。すると、その規模がどうあれ、それぞれのもち場で、リーダーシップを発揮してゆかねばなりません。そのとき、銘々が元来有する個性、もち味に加え、学士として究めたスキルやコンピテンシー、これまで培った学修の習慣が生きてくるはずです。

ところで、英語の中で、いちばん美しいとされることばは、何だと思えますか？

それは、*home* です。公立小松大学はこれから、皆さんの *home* の一つになります。同窓会もできます。母校、公立小松大学は、永遠に皆さんの *home* となります。

では、いちばん美しいとされる日本語は、何でしょう？

「ありがとう」が、そうです。わたしは、「本学で学んでくれて、ありがとう」とも、皆さんにいいたいと思います。

わたしたちはいま、ヨーロッパで起きていることに、心を痛めています。国連で約束された17の Sustainable Development Goalsのうち Goal 16「平和と公正」が危うくなると、他のすべてのGoalも如何に危うくなるか、それを世界は痛感させられています。

わたしたちのもう一つの *home* は、地球です。世界が平和をとりもどし、人類が地球に、そして国々同士、人々同士が、「ありがとう」といつづけられることを、皆さまとともに念願したいと思います。

最後に、今日巣立つ1期生の皆さんの前途の平安とご活躍、ご参集のご一同様のご健康、弥栄を祈念し、学長告辞といたします。

令和四年三月二十三日

公立小松大学 学長 山本 博